

地彦太郎さんより、力一杯の乾盃があった。

椿山荘特別和風石焼バーベキュー料理である。サービスマンの自慢話によれば「この石」は富士の火山石を念入りに特殊研磨したものだそうです。気分よく般若湯が入るにつれ、満足な笑顔で声がまし大変賑やかになる。さわまりない愉快さの風情である。中途安東幹事より、本年一月十七日阪神大震災のお話を聞く。その際神戸六甲祥龍寺境内に在る、鈴木よね刀自、金子直吉翁、柳田富士松翁の顕彰碑並びに辰巳会供養五輪の塔の転倒等の被害報告があると同時に、これの復旧費の募金のお願いがあった。皆さんの心よい拍手賛同を戴いて有難く感謝した次第厚くお礼申し上げる。尚今回の例会に当り日商岩井株式会社、辰巳会鈴木治雄会長より過分のご芳志の披露があった。時間も終りに近づいたので、好色健康顔で記念写真を撮り、来年の新年例会には全員元気で再会しようと名残おしく

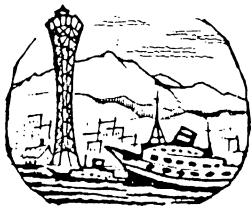
散会した。今日は本当に楽しかったでしょうか。有難うございました。

辰巳会東京支部秋季例会出席者

平成七年十一月二日(木)

椿山荘 庭園めぐり
(五十音順・敬称略)

芦原	有一	立花	實
安東	浄建	部清	也
今村	三郎	同伴	
池谷	政雄	長橋	忠男
請川	政雄	西川	明子
加地	彦太郎	(神戸本部)	
国広	五郎	松下	重男
田代	ヨシ子	以上	十四名



とか無事に過ぎていただいております。命日の頃は高知へ墓まいりに行く事に致して居ります。

戸谷太通三

もと太陽産業羽幌磁業所(のち羽幌炭磁鉄道)築別炭磁の太陽小中学校(鉄筋コンクリート三階建)をそのまま利用した緑の村、町営「みどり荘」の宿泊施設に、去る七月中旬偶然一泊して参りました。五四年ぶりの訪問で大変感慨深く、当時は現地までの鉄道建設で、神戸本社から時々出張の担当重役金子三三郎様や、小樽の松井元様、松岡俊一様、現地の町田穀光様、古賀六郎様、原田直吉様、樺太大泊の島内義治様など、次々とお懐しく思い出した次第です。なお同所の一階は事務室と大食堂、二階の一教室は羽幌炭磁鉄道時代の史料室として写真や社旗や大きな石炭塊を初め、色々な資料が展示してありました。校舎玄関には今も「太陽小中学校」の看板があがっています。

中屋伝太郎

先般は米寿の銀盃を会長様より頂きまして、感謝感激で拝顔の上御礼申し上げ度く考えましたが、足の不自由の為、今回の全国大会にも出席出来ず、申し訳なく思います。会長様に宣敷御伝言賜り度く御願ひ申し上げます。

青柳 節子

さる一月十七日の朝も暢気に神戸でやすんで居りましたが、突然の大震災で、みるみる広がる火事とTVのテロップの医療職を求めているとの事に、居ても立ってもおられず、三日目とにかく市役所へかけつけました。ベストとはとても言えませんでした。ボランティアの一員としてささやかなお手伝いをさせて頂けた事を神様に感謝しています。

越智 栄

神戸大震災に被災、一月十九日に東京の息子越智福夫宅に参り、

辰巳会会員便り

坂東みどり

住居は無事でしたが被害の最も大きかった東灘区に居りまして地震の物凄さを何ヶ月も毎日見えました。はじめは身体が無傷であることだけで御互い喜び合っていました。日が経つにつれ深刻になってゆく問題をかかえた人達の話しを日々見聞きするにつれ、やりきれない気持ちになります。全国大会で多くの方々にお目にかかり色々御話を伺うことが出来ますのを楽しみに致しております。

小原多喜子

今年の夏の暑さはなかなか厳しかったですが、毎日元気で庭の木や花や畑の手入れをしています。又十一月名古屋芸術センターでの書道展に出品のため、一生懸命頑張つて書いております。今年十一月十五日で私も満八十歳になります。

鷺尾 正彦

阪神大震災により自宅が全壊し左記の住所に来ております。来年の末には神戸に戻れると思います。皆様御自愛下さいませよう念じております。

奈良県生駒郡斑鳩町竜田南
五二八二二六

伊藤 守二

何時もお世話頂き感謝して居ります。小生は昭和十二年大成商事に入社、昭和二十三年に退社しました。現在七十三歳。小樽に牧野さん、札幌に戸谷さんが健在のみで、当時の方々はまだ殆んどいなくなり残念に思つて居ります。

金子 園花

夫甚蔵死去の節は、皆様どうも有難う存じました。おかげ様で何

堀内 照代

未だそのまま滞在して居ります。神戸東灘区本山中町の住居は未だ使用不可能のままになって居ります。会長様、御皆様に宣敷。

夫堀内富之助は平成三年十月心不全にて死去致しました。生前の御友誼御厚情感謝致して居ります。内閣総理大臣より日本国天皇は堀田富之助を正五位に叙し勲五等旭日章を授与するにつき、平成三年十月十八日皇居に於て受領するようとの証状を頂きました。有難く存じました。

原稿募集

内容 随想 短歌 俳句 詩

写真 鈴木往時の思い出 近況などを

必ず原稿用紙に縦書で

四百字詰五枚程度

締切 平成八年八月末日

送先 神戸市中央区磯辺通一丁目一ノ三九

太陽鉱工株式会社内

「たつみ」編集部宛

